

しまばら
島原都市計画事業あんなか
安中土地区画整理事業

受賞機関 島原市

はじめに

本市は長崎県の南部にある島原半島に位置し、半島の中央部に標高1,359.3mの雲仙普賢岳、平成2年に噴火した標高1,486mの平成新山がそびえ、その東側の標高818.7mの眉山を中心として有明海にのびる傾斜地となっている。「島原の乱」で有名であるが徳川時代の松平7万石の城下町で、以来、本市は島原半島の政治、経済、教育文化の中核的役割を果たしてきた。

安中土地区画整理事業は、平成2年に198年ぶりに噴火した雲仙普賢岳噴火災害により被災した住宅地を官民一体で取り組んだ事業で、全国でも例のない事業となった。

事業の経過

雲仙普賢岳噴火は島原半島全域に降灰等の被害を与え、特に、島原市及び隣町の深江町は甚大な被害を受けた。大規模土石流で被災した地域では安全を確保するため、県施工による島原市と隣の深江町との境を流れる水無川の拡幅改修事業や、国施工による導流堤建設等の防災対策が急ピッチで進められた。故郷の再生を願う地元住民は、水無川と導流堤に挟まれた通称、安中三角地帯の93.4haの高上げを計画し、住民による事業推進協議会を発足させ、島原市と一体となり地権者544名の事業同意を取りつけた。事業は土地を平均6m嵩上げするもので、並行して島原市施工で安中土地区画整理事業32.6haの整備に着手し、個人施工の9.7ha、112区画と合わせ519区画の宅地が整備された。県では農地災害関連区画整備



安中三角地帯全景（後方：雲仙普賢岳を望む）

事業で農地41.7haを基盤整備し、三角地帯の復興・再生の総事業費約140億円の大プロジェクトとなった。



土石流被災状況（H5.5.2撮影）

事業の概要

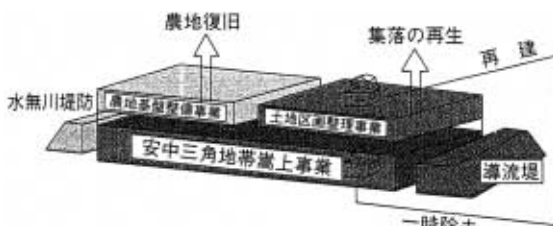
期	間：平成9年4月～平成14年3月
面	積：32.6ha
事	業 費：3,198百万円
画	地 数：407画地
幹	線 道 路：幅員17～14m、延長2,123m
区	画 道 路：幅員11～6m、延長6,096m
自	・歩道専用道路：幅員6～4m 延長1,983m
公	園・緑地：5カ所 面積11,296㎡

事業の特徴

土地を嵩上げする土砂は、噴火で河川や農地に堆積した約526万 m^3 の土砂を活用した。

また、国や県の災害復旧事業で発生する土砂の処分費を、嵩上げに伴う家屋の移転補償費及び嵩上げ工事費用に充当する事業内容で、短期間に事業が完成した全国でも例のない大事業となった。

平成14年3月には国、県、市の関係者や地元住民ら約400名が出席し、復興を祝う記念式典が盛大に開催された。



事業の位置づけ